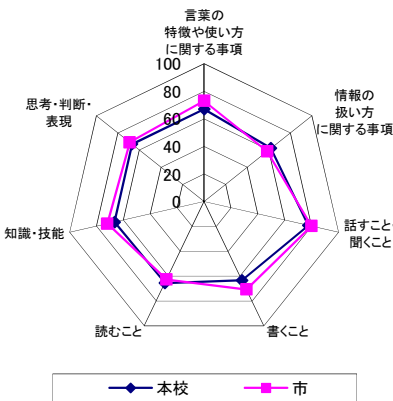


宇都宮市立白沢小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.1	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	62.0	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	77.5	79.8	75.9
	書くこと	63.4	70.7	71.7
観点別	読むこと	65.5	62.8	62.5
	知識・技能	66.7	72.0	74.4
	思考・判断・表現	67.0	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

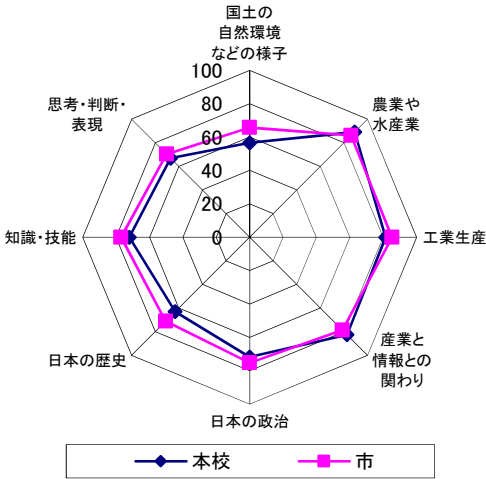
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市平均を5.9ポイント下回っている。 ○言葉の学習の尊敬語の使い方についての設問では、正答率が52.2%と市平均を1.1ポイント上回った。 ●第5・6学年の配当漢字の読みについては、4問中2問の正答率が、漢字の書きについては、4問中全問市平均を下回っている。 ●三字の熟語の構成についての理解の設問では、正答率が67.4%と、市平均を10.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、定着を図るために、家庭学習ではドリル等を活用し、国語の授業では毎時間小テストを行うなど、スモールステップの学習を継続的に繰り返し取り組む。 ・漢字や語句、熟語などの理解を深めるため、国語辞典や漢字辞典の活用を習慣化する。また、教科書に出てくる言葉を一一つ活用できるようになるまで、授業で取り立てて扱う時間を増やしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率が、市平均を3.5ポイント上回っている。 ○この領域に関する設問は一问のみである。報告文を書く際、「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章をまとめて書く」設問では、正答率が62.0%と市平均を3.5ポイント上回っている。	・情報活用能力がより高くなるように、複数の文章を並行して読むといった扱い方をする授業を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均を2.3ポイント下回っている。 ○「話の内容を明確にするために話し手の工夫を捉える」設問において、正答率が93.5%と、市平均を4.5ポイント上回っている。 ●「計画的に話し合い、考えをまとめるための司会者の工夫」についての設問では、正答率が67.4%と、市平均を9.3ポイント下回っている。 ●「互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめる」設問においては、正答率が71.7%と、市平均を2.0ポイント下回っている。	・学級活動や朝の会等での話し合いでは輪番制で司会者となり、話し手の意図を考えながら、内容をまとめる体験をしたり、司会者の様子を見て学べるような場を多く設定する。 ・ペア学習やグループ活動で互いの考えを交流させるなど、学び合い活動において、話すこと・聞くことへの指導の充実を図る。
書くこと	平均正答率は、市平均を7.3ポイント下回っている。 ○「考えを明確に伝えるための記述の工夫」についての設問では、正答率が80.4%と、市平均を0.5ポイント上回っている。 ●「指定された長さで文章を書く」設問では、正答率が50.0%と、市平均を17.2ポイント下回っている。 ●「賛成しない意見への反論を書く」設問では、正答率が55.4%と市平均を15.4ポイント下回っている。また、「自分の意見とその理由を明確に書く」設問では、正答率が71.7%と、市平均を10.7ポイント下回っている。	・制限時間内で字数制限のある作文を書くことに抵抗感がなくなるように、練習する機会を多く設定する。 ・意見と根拠を明確にして話す指導を、授業中の発言の機会を捉えて日常的に行っていくとともに、意見文の書き方について、意見と根拠を明確にした、作文の型を確実に身に付けられるよう丁寧に指導していく。 ・自分の意見を裏付けるために、予想される反論と、それに対する対応や、賛成しない意見に対する反論を考えたりするような、ディベートなどの機会を設けるようにする。
読むこと	平均正答率が、市平均を2.7ポイント上回っている。 ○「物語の全体像を具体的に想像する」設問においては、正答率が89.1%と、市平均を8.4ポイント上回った。また、「登場人物の心情について、描写を基に捉える」設問においては、正答率が41.3%と、市平均を6.7ポイント上回った。 ○説明文の「文章全体の構成を捉える」設問においては、正答率が91.3%と、市平均を7.4ポイント上回った。 ●説明文の「叙述を基に文章の内容を捉える」設問では、正答率が52.2%と、市平均を4.3ポイント下回っている。また、「文章の論の進め方を的確に捉える」設問では、正答率が60.9%と、市平均を4.2ポイント下回っている。	・物語文や説明文などの文章をある程度のスピードで読み、全体の内容を捉える力がより確かなものになるように、読書の習慣を付ける取組と、読書量を増やす取組を強化する。 ・デジタル教科書などを活用し、文章全体の構成を視覚的にとらえさせるとともに、常に文章中に書かれている言葉を根拠に考えるという意識をより高められるような指導を心掛けていく。また、捉えたい内容がどこにどのような書かれているのかをどうやって探したらよいのかをより具体的に指導していく。 ・読み取った内容の考えを互いに交流させる学び合いの学習の充実を図る。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	56.5	65.7	67.0
	農業や水産業	89.1	86.1	77.5
	工業生産	81.5	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	82.6	78.6	69.6
	日本の政治	71.7	75.2	65.8
	日本の歴史	63.0	71.1	69.1
観点別	知識・技能	72.0	77.0	72.8
	思考・判断・表現	66.8	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

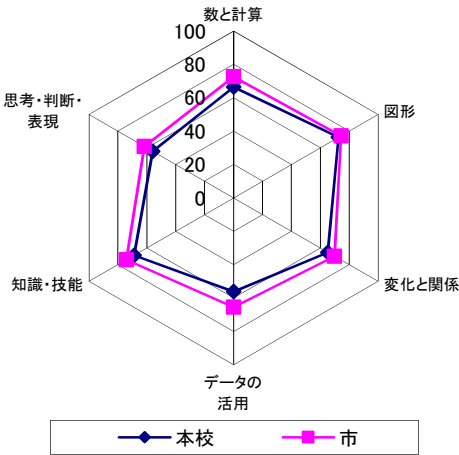
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市平均を下回っている。 ○日本の周辺の国と領土の端についての設問において、正答率が63.0%と、市平均を0.4ポイント上回っている。 ●日本の周辺の海洋名についての設問において、正答率が54.3%と、市平均を15.5ポイント下回っている。	・日本周囲の国名や国土の特色だけでなく、海洋にも目を向けて、資料集や地図帳などの各種資料を積極的に活用したり、重要なところを繰り返し復習したりして、理解が深まるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市平均を上回っている。 ○水産業の国内生産量と輸入量の変化について、資料を読み取る設問において、正答率が95.7%と、市平均を5.2ポイント上回っている。 ●圃場整備の資料に着目して、米作りの生産効率について考え、表現する設問において、正答率が80.4%と、市平均を4.6ポイント下回っている。	・資料をもとにテーマについて考え、自分の言葉で表現することに課題が見られるので、普段から自分の考えをまとめ、表現する機会を積極的に設けていく。
工業生産	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●電気自動車に着目して、環境に配慮して生産された自動車について考え、ガソリンカーと比較して表現する設問において、正答率が71.7%と、市平均を6.7ポイント下回っている。	・資料をもとにテーマについて考え、自分の言葉で表現することに課題が見られるので、普段から自分の考えをまとめ、表現する機会を積極的に設けていく。 ・工業生産について、資料などを参考に調べ学習を行い、興味関心を高めるようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市平均を上回っている。 ○情報の正しい受け取り方についての設問において、正答率が95.7%と、市平均を4.1ポイント上回っている。 ●森林を守るための間伐についての設問において、正答率が54.3%と、市平均を12.8ポイント下回っている。	・情報産業が私たちの生活に密着したものであることに気づかせるため、調べ学習を通して自分の考えをまとめ、資料を活用して表現する活動を取り入れる。
日本の政治	平均正答率は、市平均を下回っている。 ○国会の働きについての設問において、正答率が82.6%と、市平均を15.8ポイント上回っている。 ●日本国憲法における天皇の地位についての設問において、正答率が52.2%と、市平均を17.9ポイント下回っている。	・日本の政治の仕組みについて、資料を用いて調べ学習を行い、興味関心を高めつつ知識の定着を図る。
日本の歴史	平均正答率は、市平均を下回っている。 ○弥生時代の人々の暮らしに着目して、米作りが広まったことについて考え、判断する設問において、正答率が76.1%と、市平均を2.9ポイント上回っている。 ●藤原氏の政治についての設問において、正答率が69.6%と、市平均を15.1ポイント下回っている。	・各時代の主な出来事や特色について、教科書や資料集などを用いて自分なりにまとめる活動を通して理解を深めるようにする。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	66.4	72.6	71.6
	図形	72.6	74.4	72.0
	変化と関係	65.2	69.8	62.6
	データの活用	56.2	65.5	59.1
観点別	知識・技能	68.8	74.1	68.9
	思考・判断・表現	55.9	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

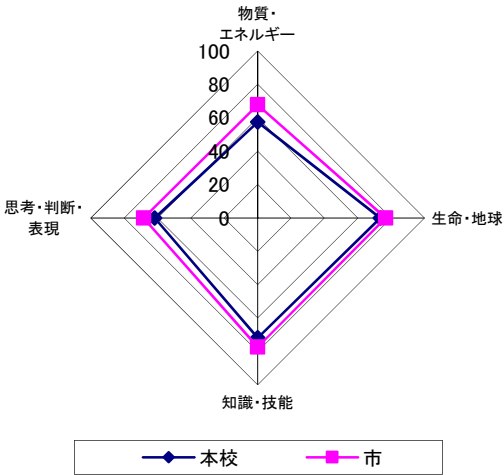
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均を下回った。 ○図を使って、小数倍の何倍かを求める文章問題にあった除法の式の選択問題では、市とほぼ同じの正答率であった。 ●小数第一位の乗法の計算問題では、市平均を9.6ポイント下回った。 ●約分ありの分数の除法の計算問題では、市平均を9.1ポイント下回った。	・小数と分数の乗法・除法の計算の仕方を解釈して、整数と小数、分数の混ざった計算や小数同士の計算などが正確にできるよう、ドリルなどで反復練習を進めていく。 ・2文章題などを活用し、立式や数字の表す意味を考える学習を取り入れ、課題解決の力の定着を図る。
図形	平均正答率は、市平均を下回った。 ○三角柱の展開図から、見取り図の辺の長さを読み取る問題では、市平均を7.3ポイント上回った。 ○合同な三角形を作図する方法の理解の問題では、10.0ポイント上回った。 ●正多角形の作図方法から、円の中心のまわりに行ける角の大きさと、正多角形の1つの内角の大きさを求める問題では、市平均を13.1ポイント下回った。	・さまざまな正多角形や円についての復習を行い、応用問題への定着を図る。 ・過去に学習してきた内容を振り返り、素地的体験と知識を結び付けながら指導に当たる。
変化と関係	平均正答率は、市平均を下回った。 ●単位量あたりの大きさの速さを求める問題では、市平均を9.3ポイント下回った。無解答率が39%であった。 ●場面の状況から、単位量あたりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断する問題では、市平均を2.9下回った。 ●道のりとかかった時間から時速を求める立式の問題では、市平均を4.3下回った。	・単位量あたりの大きさについて復習し、その意味や求め方への理解が深まるようにする。 ・速さを求める公式を理解し、活用できるように繰り返しの演習をする。
データの活用	平均正答率は、市平均を下回った。 ●データの見方の度数分布表の理解を求める問題では、平均を10.5ポイント下回った。 ●いろいろなグラフの読み取りで、棒グラフと折れ線グラフを問題では、いずれも市平均を10.0ポイント下回った。	・データから平均値や最頻値の意味と計算によって求められる方法を確認する。 ・いろいろなグラフの見方や活用の理解が深まるように、日常からグラフの活用の学習をする。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	57.4	67.8	64.1
	生命・地球	73.6	76.7	78.3
観点別	知識・技能	71.9	77.4	78.3
	思考・判断・表現	61.6	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市平均を下回っている。 ○二酸化炭素と石灰水との反応についての設問では、正答率が93.5%で、市平均を2.1ポイント上回っている。 ●振り子が1往復する時間とおもりの重さとの関係についての設問では、正答率が58.7%で、市平均を13.2ポイント下回っている。 ●振り子が1往復する時間と糸の長さとの関係についての設問では、正答率が26.1%で、市平均を18.2ポイント下回っている。 ●方位磁針の針の動きと電磁石の極に関する設問では、正答率が30.4%で、市平均を12.0ポイント下回っている。 ●電磁石を強くする方法についての設問では、正答率が63.0%で、市平均を14.3ポイント下回っている。 ●物が燃えるときの空気中の酸素の割合の変化についての設問では、正答率が56.5%で、市平均を12.0ポイント下回っている。	・結果を推測し、実験を行い、結果をまとめ、考察・検証するという学習の流れを大切にし、科学的な思考力を高める。 ・ふりこの周期には長さだけが関係すること、その他の条件(ふれ幅、おもりの重さ)は関係しないことをしっかり理解できるよう、実験の結果から考察する時間をじっくりと取るとともに、復習も行って定着を図る。 ・方位磁針の針が引き付けられた極(N極・S極)と電磁石の極との関係について、3学年での磁石の学習を想起させて復習し、定着を図る。 ・電流の向きが反対になると電磁石の極も反対になることが正しく理解できるよう、実験の結果も振り返りながら復習する。 ・実験の結果から、電磁石はコイルの巻き数を多くし、電流を強くすると磁力が強くなることをしっかりと理解できるようにする。 ・ろうそくなどが燃える前後の空気中の気体の変化について、実験の結果を振り返り、燃えた後の空気中は燃やす前より酸素が減り、二酸化炭素が増えることをしっかりと理解できるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市平均をやや下回っている。 ○台風接近中の危険な行動についての設問では、正答率が93.5%で、市平均を2.1ポイント上回っている。 ○食べ物が消化管を通る順についての設問では、正答率が95.7%で、市平均を10.3ポイント上回っている。 ○植物の水の通り道についての設問では、正答率が93.5%で、市平均を2.8ポイント上回っている。 ○植物が二酸化炭素を吸収する実験についての設問では、正答率が89.1%で、市平均9.4ポイント上回っている。 ●春頃の日本付近の天気の変わり方に関する設問では、正答率が32.6%で、市平均を20.6ポイント下回っている。 ●酸素が多い血液が流れている所を選択する設問では、正答率が45.7%で、市平均を14.6ポイント下回っている。 ●植物の葉を日光に当てる前後での、空気中の酸素と二酸化炭素の割合の変化についての設問では、正答率が39.1%で、市平均を13.2ポイント下回っている。	・衛星画像の雲の動きなどから、日本付近の天気はおおよそ西から東へと変わって行くことについて復習し、天気の変化のおおまかな規則性について、台風の動きと区別して理解できるようにする。 ・肺から心臓に戻った血液は酸素が多くなり、心臓から全身へと送られて行くこと、全身から心臓に戻った血液は酸素が少なく(二酸化炭素が多く)なり、心臓から肺へ送られ、二酸化炭素を体外に出し酸素を血液中に取り入れて心臓に戻ることなど、図や映像などを使って復習し、血液の働きと呼吸についての理解が深まるようにする。 ・植物は葉に日光が当たると二酸化炭素を吸収し酸素を出すことを、実験の結果をじっくり考察するとともに、図なども活用しながら確認し、正しく理解できるようにする。

宇都宮市立白沢小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
算数科における、習熟度別少人数学習・TTの授業構想と実践	算数では少人数学習(3～6年)を行い、その習熟段階に応じて個別のニーズを的確に把握し、個に応じたアプローチをする。	6年算数科においては、図形の一部の問題を除いて、市平均を下回る項目が多かった。
国語・算数の基礎学力向上をめざす、児童の学びに即した「プロジェクトS」学習の充実	国語では漢字・言語事項、算数では主に計算問題を繰り返し学習することで基礎基本の習熟を図る。	6年国語科においては、漢字の書き取りの正答率が全て市平均を下回っている。

★市の結果を踏まえての次年度の方向性

「教科の学習は好きですか」という項目については、1～3年では肯定割合が高いが、4年で市平均と同等となり、6年では15%以上下回っている。また、「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」という項目の肯定割合においては、上学年では10%以上下回っている。児童は学習に対して必要性を感じているものの、学年が進むにつれて「好き」といえない状況をかかえており、やはり、できる楽しさを感じるのが難しくなっていることが影響していると考えられる。以上のことから、まず基礎・基本の定着を図り、学習に対する楽しさや充実感を高めていきたい。